

経営比較分析表

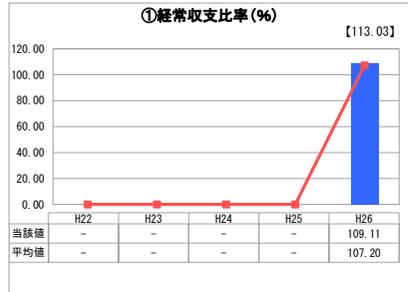
長野県 御代田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	78.30	47.42	3,132

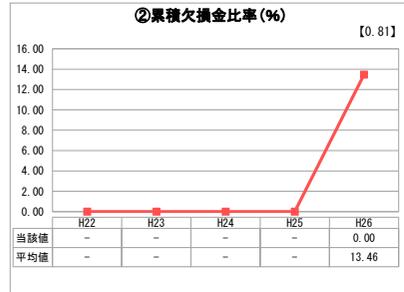
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
15,455	58.79	262.88
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
7,314	30.00	243.80

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成26年度全国平均

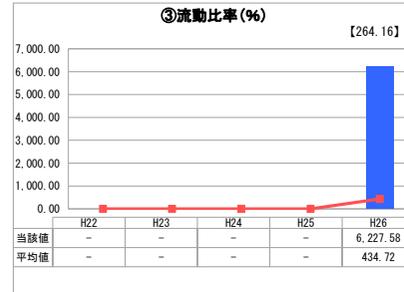
1. 経営の健全性・効率性



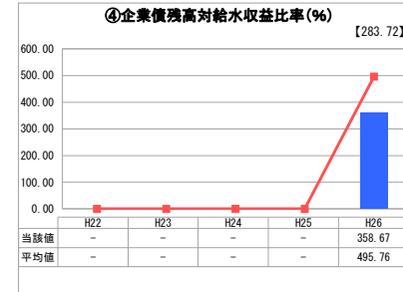
「経常損益」



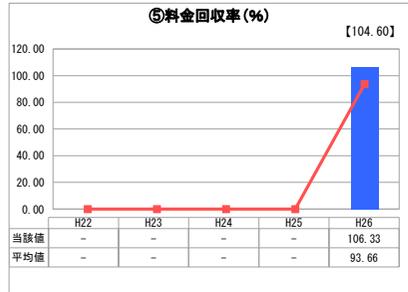
「累積欠損」



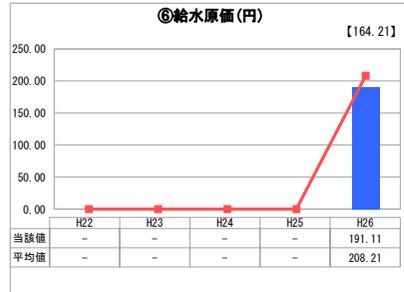
「支払能力」



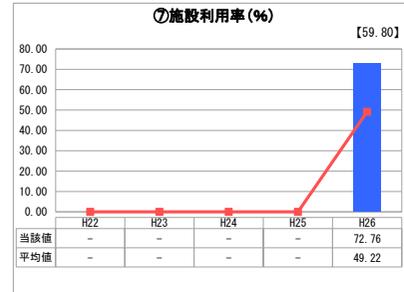
「債務残高」



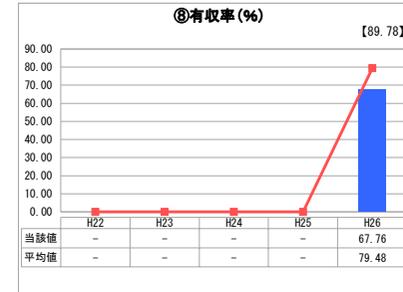
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

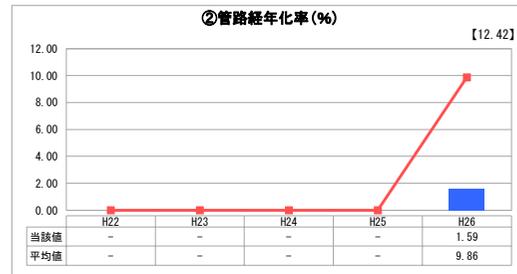


「供給した配水量の効率性」

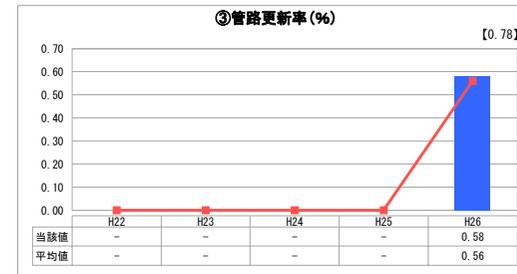
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成26年度の収支は黒字であるが、水道使用料滞納者の増加により料金収入が減少しており、今後は滞納整理の強化により徴収率を向上させる必要がある。また、配水管布設工事等の件数増により建設改良費が増加傾向であり、料金収入だけでは賅えない支出については、計画的に借入れを行うことで水道施設等更新に充てる財源を確保する必要がある。料金水準については、今後更新が必要な施設が増えてくることと予想されるため、見直しを行う必要があると考えられる。有収率は平均値よりも低く、漏水等が原因で給水装置等を通して給水される水量が収益に結びついていないことが考えられるため、使用者に対して水道を使用しない期間の閉栓を促したり、定期的な漏水の確認をするように促す必要がある。平成26年度は健全な経営であるが、今後も継続していくために以上のことを踏まえて改善を進めていく。

2. 老朽化の状況について

平成26年度は法定耐用年数を経過した管路は少なく、管路の更新投資を早急に増やす必要はないと考えられる。また、短期的な計画を立てて毎年管路の更新を進めている。しかし、今後更新の必要がある管路が増える可能性もあるため、財源確保を視野に入れた施設更新計画を策定し、効率良く更新を進めていく必要がある。

全体総括

現在は黒字基調にあるため、早急に経営の改善を行う必要はないと考えられるが、水道施設等の更新に備えて長期的な計画を立てる必要がある。今後は財源確保を視野に入れた施設更新計画の策定を進めることで、水道施設の更新の時期を明確にし、料金水準の見直しや借入れを計画的に行っていく、健全な経営を継続していくように努めていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。